

**令和3年度 草の根・人間の安全保障無償資金協力
「エチミアジン市立第13幼稚園改修計画」署名式の実施**

令和3年12月1日、草の根・人間の安全保障無償資金協力「エチミアジン市立第13幼稚園改修計画」（贈与限度額：90,181米ドル(9,739,548円)）に対する署名式が、アルメニア教育・科学・文化・スポーツ省において開催されました。本式典では、福島正則在アルメニア日本国大使館とアンナ・ソゴモニャン・エチミアジン市立第13幼稚園園長との間で贈与契約への署名が行われ、アルカディ・パポヤン・アルメニア教育・科学・文化・スポーツ省対外関係・ディアスポラ局長やムヘル・ムクルチャン・エチミアジン副市長等が出席しました。

本計画は、アルマヴィル州エチミアジン市に所在する市立第13幼稚園の教室、体育館、イベントホール、トイレ、調理場、バルコニーの改修を通して、園児の学習環境の改善を目的としています。これにより、同幼稚園に通う園児110人が安全で衛生的な環境で教育を受けることが可能になり、また、待機児童30名の受け入れが可能となります。

式典冒頭、パポヤン局長は、本件が日・アルメニア関係の強化に資するだけでなく、教育分野の発展にさらなる援助を呼び込む機会になると述べました。また、これまでの日本政府による支援への感謝と、今後の継続的な協力を期待を示しました。

福島大使は、子どもの教育課程における良好な教育環境の重要性を強調した上で、本式典は、基礎教育の充実に草の根レベルで取り組む、日本政府の継続的な支援の一例であり、また今後も取組を継続する決意の象徴であると述べました。

ムクルチャン副市長は、日本政府への謝意を述べた上で、本件が実り多いプロジェクトになり、今後のさらなる協力への基盤となることを期待する旨述べました。加えて、ソゴモニャン園長も日本政府への謝意を表し、本件が児童の学習環境を改善するだけでなく、幼稚園の改修により新たな児童30人の受け入れと2人の新職員の雇用が可能となる点においても、非常に有意義なプロジェクトであることを強調しました。



福島大使による祝辞



ソゴモニャン園長によるスピーチ



贈与契約に署名するソゴモニャン園長と
福島大使



式典の参加者